

A29 24, 10~25, 3 日経・連載小説「登山大名中川久清」諸田玲子：大船との深い縁  
~~特に2~3月には小説の中に実話？推定？等が混在し頭がクラクラする話でした~~

豊後の国岡藩は結局、城主中川久清の庇護の下、代々隠れキリシタンが存在し大船山たいせんさんを軍事砦とし要害化に注力。宿敵・松平伊豆の守の死去に安心するも執拗な公儀の目をくらす事は出来ず。逃げ場を失った者たちのために大船・常楽寺の末寺として伊豆（伊勢原市？）に浄発願寺を設ける。

一方、大山不動の東、（伊勢原市）七沢温泉の近くに僧行基が開祖と言う日向山靈山寺（日向薬師〜ハイクした事あり）があり、効験あらたかと言われ頼朝、政子も訪れたが、もっと近くに〜と伊豆・葛城山の麓の小坂に小坂薬師を建て詣でた、と。

またキリスト教信者・恋人らんと息子清五郎（結局 4 才で亡る）〜七沢温泉、大山不動、日向薬師〜大船・常楽寺と母との書状遣り取りの話。北鎌倉に東溪院（明治期に廃寺）を建立し娘・夏姫を祀る。（北鎌倉・光照寺のクルス紋は東溪院から移築したらしい。何故か？大船観音辺りも中川家の領地であったらしい。）

その後も長崎奉行のキリシタン追及の手は緩まず、イザとなったら幕府と戦う？心境で山城、武器等の戦時体制を密かに構築する中、家来が殺害された。母親の縁戚・友人の伊豆の守・酒井忠清の陰ながらの忠告・庇護にも関わらず状況は変わらず。

一方で 24, 12, 18 切支丹・恋人らんの為に水戸家縁の母・万姫（実際は側室安威の方）の隠居江戸屋敷に隠れ家を作ったが、終に長崎奉行の追手に家来が殺害された。急遽、万姫（後日、キリシタンと判明）と縁の深い鎌倉・英勝寺？に匿って貰うべく屈強の部下を付けて逃がす途中で川を渡った正面の山を右手に見て北へ急ぐ。かなたに木が一本も生えていない禿山が見えた。そこは離れ山（現在の大船離れ山）と呼ばれていて、方角を定める目安となる。伝熊は山の東が大船村で、常楽寺があると逃げる〜らんに教えた。しかし終に内に追手に見つかり、本人の為に刃に掛けた。自分は報告義務を果たすため自刃せず、何とか逃げ帰り城主・中川久清に報告する。

その後の幕府の追及は激しく、中川藩存続のため、終に友と頼む池田光正、大老に昇進の酒井忠清の薦めもあり、隠居し家督を譲る決心をして息子の久恒に申し渡した。

25, 2, 9 付け：らんが埋葬された土地は大船の臨濟宗円覚寺が所有しているとわかり（北条氏ゆかりの英勝院が建立した英勝寺と北条時宗開基の円覚寺には親交があったため）英勝寺はこの一角を譲り受け庵を建て、清雲尼こと佐代がらんの埋葬地を守ることになった。無論鎌倉なら安全とは断言できない。五十年近く昔になるが、小袋谷村の隠れキリシタンが処刑された話も聞いていた。

2, 15~27 佐代との間に出来た新九郎 47 才と初面会。今は豪徳寺（彦根井伊家の菩提寺）で修行。生後間もなく母親と引き離され父（自分）を知らぬ赤子だった。鎌倉に創建されるお寺の開山に推挙し真実を教える役は佐代に託す。

2, 18 井伊は大老になり、その息子に久清の孫娘が嫁ぎ、岡藩中川家は安泰となる。

3, 1 一方で、自分は中川の子でなく豊臣秀頼の子と判明！即ち生母・安威の方は父の側室でなく豊臣秀頼の側室のおあい どのと判明。大恩のあった豊臣の遺児を守るため急遽父の侍女となり時期をみて出家する筈だったが万姫に男子が生まれなかったため図らずも中川の後継になったと判明！（日本人離れした顔から〜此处は小説かな！）

3, 13 徳川綱吉の代になり朋友の従妹酒井忠清が失脚し老中が堀田正俊に。

3, 26 將軍就任祝の献上時に綱吉/堀田連合に隠れキリシタンを匿った噂を難癖され“匿った者 1 人を探して差し出せ！”と指示され退出。

3, 31 結局、差し出すのは自分の首！と悟った⇒目指すのは岡城でなくらんが待っている西方浄土だ！と〜かつてないほどの平安に満たされる。と結ぶ。

以上、読破をお疲れ様です。